

星屑

2008年4月号

No. 397



熊本県民天文台

人気です！ 小学校4年生向け 「星の観察」 指導 と 「星の観察会」

2/23（土）、熊本市健軍小学校では、この冬2回目の開催に約90名が参加！



校庭に望遠鏡2台と双眼鏡を準備



シリウスや土星に歓声が上がりました

好評に応えて…

◆ 「4年1組でも開催したい」と申込が

昨年の12月1日に、4年2組を対象に開催したのがとても好評だったそうです。それを聞いて、4年1組の保護者の方から「1組でも開催して欲しい」と申込が届きました。

今度は2月下旬の開催です。ちょうど土星が「衝」を迎える時期。オリオン座の観察と土星の観望を中心に内容を組み立てることにしました。

一番寒い季節です。例年なら、曇りや雪などお天気の心配もある時期です。そこで、新たに撮影したオリオン座の星野写真やその解説も加え、電子紙芝居の番組を補強して「星の観察会」に備えました。

小学生向けの観望会用にと自費で購入した12cm短焦点屈折鏡筒も、今回が「初出動」でした。

曇りときどき 晴れ のお天気

前日までは異常なほど的好天続きで、全く雨が降りませんでした。ところが、前夜から雨。当日朝までたっぷりと降りました。午後も一面に雲が広がっていました。

それでも、「夕方には晴れ間ができる」という予報を信じて、開始時刻の1時間半前には小学校に到着、望遠鏡の組み立てなど、準備を始めました。

まず、C-11（28cmシュミカセ）、12cmF5屈折、8cm11倍の双眼鏡を校庭に配置。教室では学校側に準備して頂いたスクリーンやプロジェクターもスタンバイ。ワイヤレスマイクとスピーカーのセットを校庭に持ち出して準備完了です。

「卒業生」も応援にかけつけ

この日は、小林昌樹さんが応援に駆けつけて下さいました。彼は健軍小学校の卒業生。母校で「星の観察会が開催される」と聞いて、「久しぶりに母校の様子も見てみたい。」「健軍小の子ども達に星を見せてあげたい」と考えたそうです。

数十年ぶり（?）に訪れた「母校」は、木造だった校舎が鉄筋コンクリート造に替わり、古めかしかった講堂も今風の体育館に変貌していて、「浦島太郎」の気分を味わったようです。

保護者の方が準備して下さったおにぎりやだご汁を頂いて、いよいよ本番開始です。



何度もならんで楽しんだ！

19時に集まってきたのは、およそ90名。前回同様、両親が付き添ってきたご家庭や、ちびっ子を連れてきたご家庭、中学生くらいのお子さんを同伴されたところもあって、健軍小学校の夜の校庭は賑やかでした。

開会と同時にたくさんの質問が飛び出し、すぐに子ども達は夢中になっていきました。それに引き込まれるかのように、保護者の方々も熱心に「星の観察」に参加して下さいました。ほとんどの方が夜空を見上げ星を見るのは久しぶりだったのでしょう。また、大きな望遠鏡で星を見るのは「これが初めて！」という方多かったです。

天頂付近には火星、南の空にはシリウスやオリオン大星雲、西に傾いたスバル、東の空から昇る土星。そして頭上に広がる冬の星座。ときおり広がる雲にじゃまされながらも、たっぷりと星空の観望と解説を楽しんで頂きました。何度も列に並び直し、土星を見ようとする人が多かったです。

室内での解説も好評でした

土星の観望を楽しんでいるうち、雲が広がってきました。そこで、校舎3階の視聴覚室に移動、室内で解説を行いました。

まずは、オリオン座の解説です。この日は、電子紙芝居での解説に新しい画像を追加して臨みました。オリオン座を撮影した画像ですが、一眼デジカメ（EOS20Da）に50mmの標準レンズを取り付け、さらに公害カットフィルターを付けて撮影したものです。

普通に撮影した画像と違うのは、バーナードループがはっきりと写っていることです。さらにオリオン大星雲から馬頭星雲付近にかけて赤い水素ガスの星雲が広がっているのが分かります。ほぼ同じ構図で撮影した普通の画像と見比べてもらったので、割と簡単に違いに気付いてくれました。

「オリオン座では200万年前くらいに超新星の大爆発があった。そのとき飛び散った水素ガスがここまで広がって赤く輝いている」という解説に、皆ビックリしていましたよ！





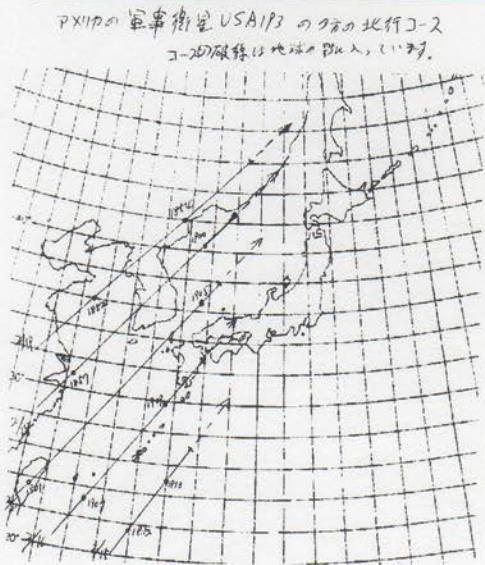
写真で見るオリオン座

オリオン座を写真撮影すると、たくさんの星といっしょに、赤い星雲が写っていることに気が付きます。この赤い雲は、地球から1,500光年ほど離れた宇宙空間に浮かんでいる水素ガスの雲です。

一番明るい「オリオン大星雲」は肉眼では小さな星のように見え、ボーッとかすんだように感じるでしょう。望遠鏡を使うと、鳥が羽を広げた形に見えます。一方、馬頭星雲は肉眼では見えませんが、写真には赤く写ります。半円形に見えるバーナードループは、200万年前頃に大爆発して飛び散った「超新星」の残りカスだと考えられています。

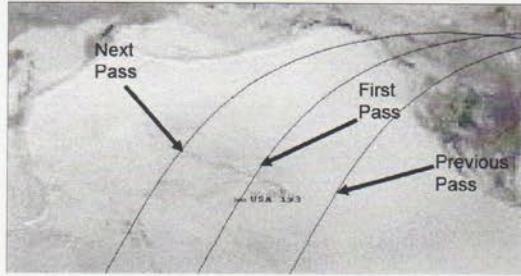
オリオン座では今も星が生まれています。赤い星「ベテルギウス」以外のオリオン座の星たちは、オリオン大星雲付近の水素ガスの雲の中で生まれ、四方に飛び散っている途中なのです。(今月の表紙写真を参照)

2/21(木) 米国がUSA193衛星をSM-3ミサイルで破壊 LATからの情報で「九州上空を通過するパス」の撮影に成功!



落下が予想される低高度の衛星（高度250km程度）を監視しているLATから、「USA193衛星が、2/15～19の夕方、九州付近を通過する」という情報が県民天文台に寄せられました。早速、MLに情報を配信、観測を呼びかけ、多数のビデオ観測や写真撮影に成功、マスコミを賑わせました。

この衛星は、2006年12月に打ち上げられた米国のスパイ衛星です。打ち上げ直後に制御不能になりました。大気との摩擦で次第に高度が下がっていて、3月初旬に大気圏に再突入し「落下する」と予測されていました。満載している「ヒドラジン」という姿勢制御用の燃料は猛毒で、人口密集地に落ちると甚大な被害が出ると心配されました。

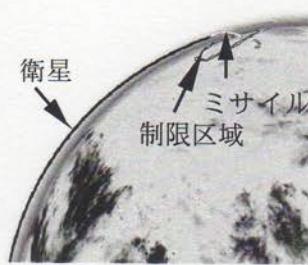


◆ ミサイル防衛システムで迎撃!?

米国は、この衛星が大気圏に突入する直前の時期を見計らって、ミサイル防衛システムを使って迎撃、大気圏外で破壊してしまうことを決め、実際に3月21日に実行していました。

2008年初頭から周到に準備を進めたようです。ハワイ沖に派遣されたイージス艦から、大陸間弾道ミサイル迎撃用のスタンダード・ミサイル（SM-3）を発射し、高度245kmの軌道上でUSA193衛星に命中させました。

衛星の大きな破片は、そのままハワイ西方から北方にかけての海域にむかって落としたようです。飛び散った破片のうち2割くらいは破壊後一周（88分）以内に大気圏に再突入、残りの破片は5年ほどで大方が落下、最終的には21年ほどかかって全部が大気圏に再突入して消滅すると予想されています。



◆ ねらいは
機密保持?
迎撃=破壊
の理由は、「ヒ
ドラジンが飛
散すると危険
だから」とさ
れていました。
しかし、実際のねらいは別のところにあったという見方もあります。それは軍事機密満載の最新の機器類が搭載されていたからです。万一これらの機器類が、再突入の高温でも燃え尽きず、ロシアや中国や反米的な国々の領土に落下、機密が漏れるのを恐れたというものです。

昨年、すでに中国が衛星破壊実験に成功しており、米国はそれ以上の宇宙軍事技術を保有していることを見せつけておく必要があったともいわれています。

私たちは、スパイ衛星が九州付近上空を通過するのを、「撃墜」の数日前に撮影することに成功したわけですが、宇宙空間を舞台に、映画の一シーンであるかのような「撃墜劇」が実際に行われたのは事実。今後、宇宙空間での軍拡競争に拍車がかかるのではないかと心配されています。

2/28(木) 崇城大天文部 19名が来台 天体観望と撮影に取り組みました

米国のスパイ衛星が撃墜された日の夕方、崇城大学天文部の香川（部長）さんからメールで申込を頂き、28日（木）の夜に、崇城大天文部向け「特別観望会」を開催することになりました。

当日は、良いお天気。九州東海大の白鳥さんも応援に駆けつけて下さり、21時から24時まで、予定を越える19名の参加で賑わいました。見たい、撮影したいとご希望があったのは、土星・火星・オリオン大星雲・バラ星雲・すばる・馬頭星雲などです。大勢での観望会・撮影会でしたから、オリオン大

星雲や土星の観望と撮影だけでも結構な時間がかかってしまいました。でも、参加者は大いに楽しんで下さったようです。

参加者には、大型望遠鏡で初めて星を見る人も多かったのだそうです。途中から、持参した一眼デジカメを使った撮影に数名が挑戦し始めました。41cm望遠鏡を使った撮影や星野写真の撮影などです。

土星の撮影を楽しんだ方には1階のミーティングルームに移動して頂いて、電子紙芝居での解説を行いました。USA193の撃墜やオリオン座の解説を行い、好評でした。

☆☆☆ ちょっと一眼

Poem & Illustration

春・・・なのですが、寒さは冬並みの今日この頃。でも、空の透明度は春らしくなってきました。(あまり嬉しくありませんが) 黄砂もやってきましたしね・・・冬の間は、連日、最高の透明度に最低のシーイングという夜が続いたのですが。

きりりとした透明感と、ぴたっと止まったシーイング・・・という組み合わせって、望めないものでしょうか・・・

まだまだ天文台での一般公開時間は、冬のダイアモンドが南天いっぱいに大きな顔をしていますが、東の空には獅子が顔を出しています。一般公開時間が終わる頃には春の大曲線も顔を出し、いよいよ春本番。獅子のお腹にいる土星も見ごろを迎えるました。あとは透明度のよい空を望むだけ・・・



らいおん

ストーブの前で
こねこが
ぐうーんと のびをした

おおきくなったら
ライオンに なるんだ

白茶ぶちのライオンなんて見たことないよ

いいんだ
おおきくなったら
白茶ぶちのライオンに なるんだ
世界に一匹だけの ぶちのライオンに

そして
夢の中でライオンになった こねこは
土星をころころ ころがして
あそんでいる

うん
白茶ぶちのライオンも 悪くないかも
ストーブがいらなくなるころには
きっと



By Dio

☆北天竺紀行（その20）☆

白鳥

11時、再びプラネに戻ってみる（なんかこだわっているな）。まだ開いていない。プラネのさっきの職員がやってきて説明するには、今日は番組の入換で午前・午後の部は休み。夕方からしか開かないらしい。それを早く言ってくれよ。こちらの語学力のせいかな？仕方ないので宿に帰ることにする。運転手の料金は150ルピーだった（なんか高いぞ！）

PGHのオーナーに2泊分の宿泊代について聞いてみる。「お前の思うままの金額でいい」いや、だからそれが一番困るんだってば。2500ルピーしか手持ちがなかったので2000ルピーを渡す。金額が安いと言われた。でも、それでは思うままの金額とは言わないんじゃないかな。それなら、最初に金額を提示される方がいい。ガイドブックでの相場よりは出しているつもりだよ。次回はもっと払ってくれと言われる。次回ね。。。まあ、考えておこう。（参考までに、「地球の歩き方」では1泊150～200ルピーとなっていたが）

12時、運転手がやってくる。またさっきの目つきの悪いのだよ。出かけようとするとドイツ人の姉ちゃん、奥さん、娘たち、そして息子（つまりはオーナー以外全員だ）どやどやと乗り込んでくる。おいおい。みんなで映画館に行くそうだ。”支払いは俺か？オートリキシャーの荷台にまで乗ってみんなで出かける。どう見ても道路交通法違反だろう。よく走れるな。なんせ、オートリキシャーの動力は50ccバイク、いわゆる“カブ”のはずなのに。料金50ルピー。やはり僕が払った。みんなにお礼を言って（言われる立場だよな。本来）金持ち日本人は1人ジャイプールからニューデリーに帰ることにする。乗合いバスで！！

バス停と言っても、通りの奥まったところにある。入り口は当然ヒンディー語なのでよくわからない。通り沿いにはお土産屋が並んでいる。バス乗り場は5番まであり、時刻表を見るとかなり頻繁にバスが出ていることが分かる。自分の乗るバスは13時、シートはNo.16とのこと。みるとA/C（エアコン、つまり冷房）なしのローカルバス、ちょっと愕然とする。6時間もこれで行くのか。どうも安いバスで注文されたようだ。不幸中の幸いは窓際だったこと（バスは2列がけ）。窓を開けてかばんはちょっと重いが膝の上に置いて帰る。バスの後ろが開いて荷物を置けるが、盗難を防ぐために自分で抱えていくことにする。

かなり6時間は長い。まあ、景色を見ながら帰ることにしよう。ゆきのはらはらどきどきとは別の楽しみ方もあるかも。途中、うとうとしたりもするがかなり暑い。しかし、周りが砂漠のためか湿気が少ないのであまり苦にならない。前のカップルは窓からゴミをぽいぽいと捨てている。ペットボトルなども。いいのか？地球に優しいとはどう考えても思えないぞ。

4時頃、まだ日もかなり高いがバス休憩に入る。日本で言うとSAみたいなところか。かなりきれい。土産物やスナックスタンドなどがある。外では親子の大道芸人風が親は弦楽器を演奏して、子どもは民族舞踊を踊っている。二人とも民族衣装で着飾っている。しかし、彼らには気の毒だが誰も立止まるどころか二人を見ようとして通り過ぎていく。みんな見馴れているからだろう。インパクトがないと気を引かないのだろうな。まあとは言っても、ジャイプールで「レッドスネークかもん」とコブラが出てきたときは流石にちょっと焦ったが。トイレも近代的できれいだった。出発時間がわからないので、一生懸命バスを見張っている。置いて行かれたら大変だ。外の露店でペットボトル（13ルピー）だけを買って、ひたすらバスから離れないでいることにする。おばあちゃん親子がバスに乗り込んでいったので僕も中で待つことにする。乗務員やってきたが、客まばら。そこで、乗務員盛んに呼ぶ。叫ぶ!! パラパラとやってくる。しかし、まだ空席が見える。バスはエンジンをかけ始めて動き始める。おいおい。まだ座席に空席が見えるぞ。SAに着くまではほぼ満杯だったのに。SAの建物の前まで移動して、そこからも呼ぶ。するとバスを待たせて向うからゆっくりと親子連れが歩いてくる。彼らが乗り込むと人数確認もしないで発車。おいおい、大丈夫か??

だんだん日が落ち始めていく。それに合せるように街らしくなってきて、車や人が多くなってくる。「デリーが近い。」地図を見たわけではないが、周囲の景色。それとバスの中での人々の”慌ただしい雰囲気から直感がそうささやいてきた。空がみょうにくもっててくる。日が暮れたのとは別に。なんだ、この煤けたような空は。太陽がだんだんはつきりしなくなってきて「おぼろ月夜」のようになってくる。しかもなにかを燃やしているにおいがあちらからもこちらからもおっててくる。なんだなんだ?

やがて、おぼろ月夜のような太陽（おぼろ日？？）が地平線に沈み始めるころには、砂漠の広がる景色から建物がひしめきあう東京の郊外のような景色に変わってきた。日本の風景と違うのは、こぎれいな公園によくみると人が疎らにいること。しかも散策をしている雰囲気ではなく、そこでたき火をしたりしている。よく見ると家財道具を広げて、そこで炊飯をしているじゃないか。そうか！さっきのなにかを燃やしているようなにおいてはこの炊飯のためのたき火のにおいだったんだ。やがて日は完全に落ちて、あたりは真っ暗になる。しかし、建物の灯は明るい。電気は来ているようだ。空港の傍だろうか、見たことのある風景が広がる。一人の男が運転席に近づいていき、運転手と交渉を始める。どうやらここで降りたいらしいが、運転手に拒否される。それでも男は折れずに粘り強く交渉を続ける、この辺りが大陸生まれの粘り強さだろうか、どうも日本人は淡白でいけない。やがて運転手が折れて、男は闇の中に消えていった。道が混んでくる。バスはあまり進まなくなってくる。”おなかがすいてきた。8時にはホテルに帰りたいなとかぼんやりと考えている。次々と客は途中のバス停らしいところで降りていく。本当は僕も降りたいが、今はここはどこにいるかもわからない。まるで雲にでも乗っているような気持ちだ。孫悟空の筋斗雲ならたちまちホテルに着けるかな。そんなことを考えては消していく。そもそも僕は”天に賜しい”ほどではない。

じっとがまんして終点に着くのを待つ。そこはきっとニューデリーなのだろう。やがて市内に入る。遊園地らしいところが明るい。車もたくさん走っている。店も多い。人も車もさかんに行き来している。ニューデリーのどこかなのだろう。やがてバスはあるところで引き寄せられるように入っていた。ちょっと広い駐車場といったところか。バスも数台停まっている。これまでまばらに降りていたのが、一気にほとんどの人が慌ただしく自分の荷物を持って立上っていく。どうやら終点に着いたらしい。どこか分からないが、とにかく降りる。降りたとたんにオートリキシャーの運転手たちに取り囲まれる。「どこへ行きたい?」「安くしとくぞ」もうそれは耳にたこができるくらい聞いた。まずは自分の居場所を確かめなくては。場所が分からぬで値段交渉をしても相場が分からない。バスの切符売り場に行ってみることにする。ガードマンに聞いてみると冷たい答え。しかたなく、窓口で聞く。やはりよくわからない。そうこうするうちに閉店時間なのかシャッター閉じられてしまう。仕方がないので、外でガイドブックを広げて見始める。すると周りからオートリキシャーの運転手達がどんどんやってきてたちまち囲まれてしまう。「お前はどこに行きたいんだ」「ここはオールドデリーのカシミール門の近くだぞ」との声が聞こえてきた。おおっ、カンタダの蜘蛛の糸もかくのごとしと漆黒の闇の中に一筋の光がみえた!ここからまた値段交渉始まる。なんせ、財布には500ルピーしかない。これがなくなったら文無しだ(実際はもうすこし隠し持っていたが)。背水の陣で値段交渉をする。思えばこの旅はニューデリーの駅で見知らぬ“紳士”に声をかけられて始まった。そこから随分成長したな(と思っている)。結局、サムラートホテルまで100ルピーで行ってもらうことになる。相場よりはかなり安い。

早速乗り込んだが、鞄を持っているのとホテルの名前を言ったことでそこに泊まるのだと勘違いされ、別のホテルを紹介される。「いや、すでにサムラートにチェックインしていて、そこに帰るのだ」と言うとちょっと残念そうな顔をしながら、別のホテルの名刺を渡される。「じゃ、次回は泊まってみようかな」また“次回”だ。

暗くてどこを走っているか分からないが、10分ほどでホテル着。なんだ近かったじゃないか。フロントに行くと「チェックアウトか」と聞かれる。おいおい、悪い冗談だろう。それともよほどホテルから追い出したいのか。

部屋に戻り、服を着替えるとパーティーに出かける。バスは出たあとなので自分で移動手段を確保するしかない。ホテルの外でホテルマンにつかまる。「タクシーか?」いや、そんな手持ちはないから「オートリキシャーで」。自分でつかまえろか。はいはい、そしますよ。ホテルには来そうもないで、坂を下って広い道でつかまることに。なかなか來ない10分ほど待っていたら、一台きた。「50ルピーで、○○ホテルまで」どこなのかわからないよう。仕方ないので地図を見せ、さらに値段も100ルピーに値上げされる。そんな分からないところまでは規定値でしか行けないとか。やれやれ、道のナビゲーションをして、さらに値上げされたのでは叶わないが、また10分も待つのはいやなので、このまま乗り込む。かなり走る。さっきのバスの終着点よりもはるかに乗っているぞ。大丈夫か??

やっと着く。でも、妙に奇麗だ。入ろうとするとガードマンに止められた。学会の名前を言うと通してくれた。さらに進んで建物の入り口から入ろうとしたところ、何人かに囲まれる。「誰に会いたいんだ」「？？」(パーティーに来たんだけどな)。また、学会の名前を言うと「今呼ぶからここで待っていろ」頭の中を“？”マークが飛び回る。ここはどこ??よく聞くと、「ここはお前が来ようとした処じゃない」へっ!! 「今、タクシーを呼ぶから待っていろ」そこへ来たのは黒塗りの高級ハイヤー!! 「Welcome!」ターバンを巻いたパンジャブ人が手招きをしている。いいのか。手持ちは300ルピーしかないぞ。

まだまだインドの旅は続きそうですが、この「北天竺紀行」は今月で終わります。まあ、無事に帰って来れたからこうして毎号連載ができているわけですから、その点はご安心下さい。

(おわり)



図1 インドのバス乗り場（ヒンディーと英語で書かれている）

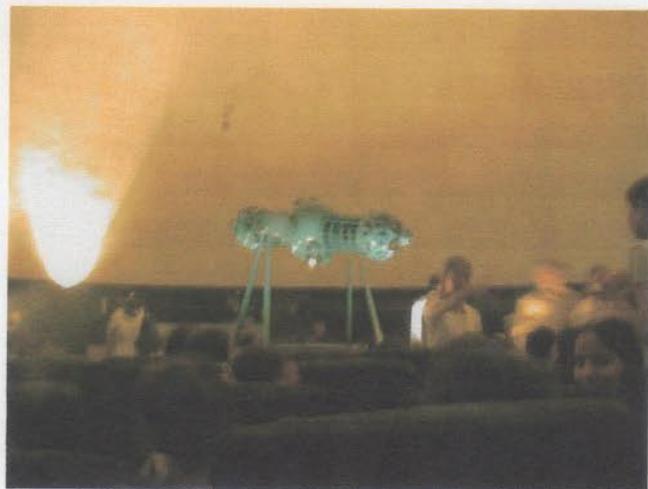


図2 このあと、ニューデリーのプラネ（ネール・・プラネ）にも行きました
女子高校生の遠足と一緒にだったのですが、その話はまた機会があれば。

日付	天気	来客数	担当運営	記事
16日 (土)	晴れ	4人	中島 西嶋 小林J 中島 西嶋	月、土星、M42、リゲル、ベテルギウス シリウス とても楽しい一家でした！ アメリカの軍事衛星撮影会、カノープス 
17日 (日)	晴れ	3人	艶島 西嶋 艶島、西嶋	ベテルギウス、リゲル、シリウス、火星、 月、土星、カストル 月面撮影を楽しんでいただきました。 アメリカの軍事衛星を撮影
23日 (土)	晴れ 時々 曇り	1人 90人	中島 艶島 高群	晴れないかと思っていたら晴れてよかったです 健軍小4年1組星を見る会 火星、土星、オリオン大星雲、シリウス 電子紙芝居「オリオン座の画像と解説」 星空クイズ M42の撮影
24日 (日)	晴れ	2人	艶島 小林M 小林M	火星、土星、M42, M45 土星、M42撮影
28日 (木)	晴れ	19人	艶島 白鳥	崇城大天文部19人 オリオン大星雲、土星の観望と撮影 その後M42、馬頭星雲や星野写真など撮影 1階ではUSA193、オリオン大星雲の解説の電子紙芝居上演
29日 (金)	雨のち 晴れ	0人	白鳥	西嶋さんが来れないとのことで「初めてのお留守番」。 当初曇りで弱く雨が降っていたので、屋根をあけないで待機していました、結局来台者ゼロ。途中から晴れましたが、望遠鏡の出番はありませんでした。

2008年2月の県民天文台～運営日誌より～

開台率11日/13日=84.6%
一般来台者数125名

総開台日数12日
会員来台35名

日付	天気	来客数	担当運営	記事
1日 (金)	くもり	2人 八代市の中山さん	中尾 艶島	M42, 火星、シリウス 電子紙芝居
3日 (日)	曇り 時々晴れ	0人	艶島 小林J 艶島	夜晴れそうだと運営に来ましたがやがて雨。 中止して帰ります。 午前→午後 玉名市で温暖化防止推進委員 向けのセミナー「プレゼンテーションの 技法」口座で5分間のプレゼンテーション 実演。質疑を通して受講生にノウハウを講 習しました。「星空の見えるまちづくり」は 好評でした。
8日 (金)	快晴	2人	西嶋 高田 小林J 白鳥	月齢1の月を撮りに早めに来台。ところが 杉の木がじゃまで・・・悲しい！！ 火星、M42、シリウス、M45、M31、 M79 とても熱心なご夫婦でした。M42は最高。 火星と土星は最低の見え方！
9日 (土)	晴れ	0人	中島 艶島、小林J 小林M 西嶋 山田、鹿釜 坂元	Talk About ☆ 星屑発送作業 鹿釜さんが大分へ2/16に引っ越しに なるそうです。会費納入とお礼を持って の来台でした。
10日 (日)	晴れ	0人	艶島 小林M +真由子 小林J	月の手持ち撮影 彗星観測
15日 (金)	晴れ	2人	小林J 高田 西嶋 西嶋	火星、土星、M42, リゲル、月 晴れているのに誰も来ないね、といって閉 めかけたところでお客様。 雲が出てきて急ぎ足での観望。ラストは月 のケータイ撮影会で盛り上りました。 月の手持ち撮影

最近ちょっと暖かくなってきて外出したくなるこの頃ですが…、花粉やら黄砂やらが元気よ過ぎて、やっぱり外出は控えようかとも思うこの頃、如何お過ごしですか？そんな先日、久しぶりに土星を見ました。日が沈んで暫くすると、東の空にピッカリと見えるレグルスと土星。低い空でユラユラながら、環が狭まった状態の土星が可愛く見えました。来年は環が無くなる？し、今のうちに見ないと梅雨にも入っちゃいますよ。なぜ環が無くなるかは、天文台のお兄さん？お姉さん？に聞いてみて下さいね。（^_^;）

☆ 4月の天文現象＆行事☆

- 4日（金） 火星が東矩（03:27 0.8等 視直径06.9") こと座Wが極大（7.3~13.0等）
清明(せいめい…春の日射し強く、全てのものが清く溌剌としてくる時期)
- 6日（日） 新月（12:55）
- 9日（水） プレアデス星団の食 17番星エレクトラ（東京 暗縁から潜入 08:16→）
19番星 タイゲタ（東京 暗縁から潜入 08:25→）
20番星 マイア（東京 暗縁から潜入 08:34→）
- 12日（土） 16P/ブルックス彗星が近日点通過
トークアバウト（天文台にて 20:00～ 変更の場合もあります）
- 13日（日） 上弦（03:32） おとめ座RSが極大（7.0~12.7等）
- 14日（月） 木星が西矩（22:20 -2.2等 視直径39.0")
- 15日（火） うみへび座Sが極大（7.4~13.3等）
- 16日（水） 水星が外合
- 17日（木） しし座の星（4.5等）の食（福岡 暗縁から潜入 20:55→出現 21:35）
- 20日（日） 満月（19:25） 穀雨（こくう…春の雨が穀物を潤す時期）
- 22日（火） こと座流星群が極大（出現期間 4月16日～4月25日）
サイド・イング・スプリング彗星(C/2007K3)が近日点通過
- 23日（水） わし座Rが極大（5.5~12.0等） てんびん座RSが極大（7.0~13.0等）
- 26日（土） おとめ座流星群が極大のころ（出現期間 3月10日～5月15日）
- 28日（月） 下弦（23:12）
- 30日（水） ヘルクレス座RSが極大（7.4~13.0等）

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2008年4月号 通巻397号

発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01700-5-105697

NPO熊本県民天文台事務局

ホームページ <http://astro.magma.ad.jp/>

メーリングリストの加入申し込み受付中 kcaohige@kcaohige.com 中島まで